

## 今後の公衆浴場に関する研究会 開催概要

### ■開催日及び場所等

○令和5年11月30日(木) 10時～12時、環境衛生課会議室

出席委員:明石委員、白井委員、水上委員

○令和5年12月1日(金) 16時～18時、WEB開催

出席委員:明石委員、川端委員、永井委員

### ■委員からの主な意見

○大阪府内の公衆浴場の現状について

- ・大阪市は労働者をはじめ公衆衛生確保のため、銭湯の設置に力をいれていたため、銭湯が多くなっている。
- ・銭湯の壁に富士山の絵(ペンキ絵)があるのは関東に多く、大阪にはタイル張りが多いのが特徴。

○今後の公衆浴場に期待できる役割

- ・大阪府がアスマイルを活用した銭湯イベントを実施しているが、今後の利活用の方向性の検討や、事業の効果評価のために、蓄積データを活用して、利用者の属性や健康状態などとの関係性を分析してはどうか。(例:普段銭湯に通っている人が参加したのか、新規参加者の掘り起こしになっているのか。高血圧者や独居者の銭湯利用ニーズの検討等)
- ・銭湯が残っている地域は偏在しているため、一律ではなく、地域の特性や人口の構成などに応じた取組が必要。
- ・銭湯利用者は高齢者が多いので、高齢者の健康に寄与している施設と考えられる。今後の地域での活用にも、介護予防など高齢者向けのサービスと、若者向けのサービスの両方が必要と考えられる。
- ・経営環境が厳しい中、アイデアで経営改善している事例がある。例えば、東大阪市の「SEKAI HOTEL」との連携や、ロビーでの音楽イベント、様々なクラフトビールの販売、ランナース銭湯、地域の大学生とのコラボイベントの開催など。
- ・浴場組合では、組合HPでの取組のPRや様々なイベントなどが行われているが、十分知られていないように思う。

○研究会の今後の進め方

(事務局から、次回は営業者や市町村等との意見交換を行うこと、また、利用者等のアンケート調査を実施予定であることを説明)

- ・調査にあたっては、その地域に高齢者の世帯が多いかなど、地域特性を把握しておくほうがよい。
- ・回答方法をネットに限定すれば、ネットの利用ができない方が対象から漏れる。紙での回答もできるように工夫してほしい。
- ・SNSの利用状況を調査する場合には、**Facebook**の利用者は比較的年齢が高く、若者が少ないなど、利用者の年代などに差があるので、SNSの種類も聞いたほうがよい。
- ・利用者や営業者のアンケートに「自由記述欄」を設ければ、利用した感想や意見、事業実施で考えていることなどを具体的に把握できると思う。